

# 深めて

## 広島平和記念式典派遣事業 中学生海外派遣事業



派遣メンバーと毎年子どもたちに折りづるを託している井森みゆきさん(写真後列中央)

安平町では、毎年国内外に児童・生徒を派遣し、国際理解と平和について学習する取り組みを行なっています。

今年も、8月6日に広島市で開催された平和記念式典に小学生3名と中学生2名を派遣しました。

また、8月1日から8日まで早来中学校と追分中学校の生徒10名をオーストラリアに派遣し、ことばや文化など、国際理解を深める学習を行い、参加した皆さんが現地を感じたり学んだことの報告会が9月13日に町民センターで行なわれ、感想や貴重な体験などが紹介されました。



平成8年に世界文化遺産に登録された原爆ドーム

### 被爆62年目の広島へ

8月5日、町内の中学生と小学生そして引率者が追分公民館を出発しました。集合写真左から佐々木瞳さん(早中3年)、梅原亮介君(早小6年)、長沼勇希君(遠小6年)、足利倫子さん(追中3年)、長谷川絢音さん(追小6年)、尾崎知己主幹(町職員)の6名です。

8月6日の平和記念式典に参列した一行は被爆された塩冶節子さんから当時の話や戦争の恐ろしさを聞きました。62年前に原子爆弾が落とされたとき塩冶さんは5歳でした。爆心地から1・6キロの自宅において何が起きたか分からず、母親が2歳の妹と自分を助けてくれたといっています。7年後、小学3年生の妹さんが原爆の後遺症で亡くなりました。



被爆者に合掌



広島市内を流れる元安川で行なわれた灯籠流しに参加



語りべの塩冶節子さん(写真右)から体験談を聞く児童・生徒

「原爆や戦争の恐怖、後遺症との戦い、これから自分たちは何をすべきか」などさまざまなテーマを設け学習をした5名の児童・生徒は現地で被爆体験者の話を聞いたり、資料館を見学したりして改めて原爆の恐ろしさを実感。戦争をしないために何をすべきかを考えました。多くの市民が水を求めて集まったという元安川で行われた灯籠流しに参加し、被災者の供養と平和へ



平成14年度「広島平和記念式典派遣事業」  
「中学生海外派遣事業」報告会